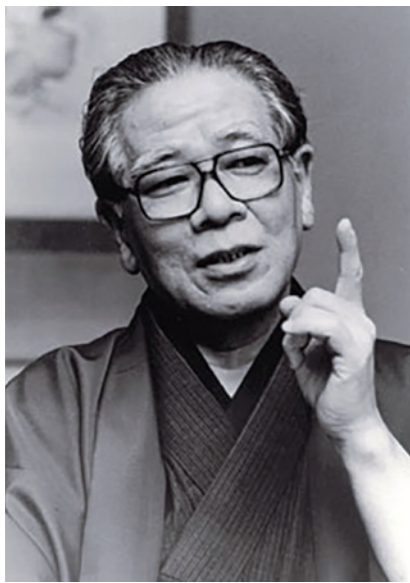


池波正太郎について



写真：但馬一憲（講談社）

時代小説やエッセイなど多くの作品を残した作家・池波正太郎は、大正12年1月25日、旧浅草区聖天町61番地（現台東区浅草7丁目3番付近）で誕生しました。

少年期・青年期を台東区内で暮らしました。戦後、下谷区役所（現台東区役所）の衛生課に勤務したこともありましたが、当時劇作の第一人者だった長谷川伸氏に師事し、昭和26年に劇団・新国劇のために書いた「鈍牛」という作品で劇界にデビューしました。新進の劇作家として注目される一方、小説を書くことも多くなり、昭和35年「錯乱」で直木賞を受賞。以後、信州の真田家を題材とした多くの真田もの、幕末もの、忍者ものなどを次々と発表していきます。43年からは「鬼平犯科帳」のシリーズ、47年には「剣客商売」、「仕掛人・藤枝梅安」のシリーズ、49年からは大河小説「真田太平記」がスタートしました。その後には、この4作品を常に執筆し、さらに自身が最も好んだ江戸の町を舞台にした多くの時代小説、食べ物や旅などを語る珠玉のエッセイなどに健筆を揮い、1000作を超える作品を残しました。江戸の名残が残る上野や浅草を、下町の人々の視点から作品を構築し、思い出の地をたびたび舞台として描いています。平成2年5月3日、急性白血病のため惜しまれて急逝、「鬼平」「梅安」の最終作は未完となっています。

池波正太郎記念文庫

池波正太郎の業績や作品の世界を広く伝えるため、池波家から寄贈された資料の一部を常時展示公開する施設として平成13年に開設しました。全著作本、自筆原稿・絵画の展示の他、当時の様子を復元した書斎、人気シリーズコーナー、時代小説に関する資料を収集・公開する時代小説コーナーを設けています。

〒111-8621 台東区西浅草3-25-16
台東区立中央図書館内
TEL.03-5246-5915



1 谷中・いろは茶屋 台東区谷中7-3-4 鬼平・剣客	「鬼平犯科帳」の「谷中・いろは茶屋」では火付盗賊改方の同心・木村忠吾がいろは茶屋の菱屋のお松に夢中になり通いつめます。	25 大川橋（吾妻橋） 台東区花川戸1-1-1 剣客・梅安 墨田区吾妻橋1-23	池波正太郎の作品では大川橋で、様々な事件が起こります。「剣客商売」の「暗殺」では、秋山大治郎と御用聞き四谷の弥七が、橋上で旗本・杉浦丹後守に雇われた浪人たちに襲われます。
2 円光寺と書物間屋・和泉屋の根岸寮 台東区根岸3-12-21	「剣客商売」のヒロイン佐々木三冬が秋山大治郎に嫁ぐまで暮らした家。ここから近い根岸小学校は、池波正太郎が最初に通った小学校です。	26 駒形堂と酒飯・元長 台東区雷門2-1-1	秋山小兵衛が仲立ちとなり祝言をあげた、不二楼の料理人・長次と座敷女中・おもとが開いた店。店名は長次とおもとの一字ずつをとって小兵衛が名づけた。
3 小野照崎神社と下谷・根岸界限 梅安・鬼平・剣客 台東区下谷2-13-14	蛸汁（じじみじる）、泥鰌（どじょう）が売りもので日暮れになると客で一杯になるこの店は、池波作品でたびたび物語に登場します。	27 浅草・御殿河岸 鬼平 台東区蔵前2-10-9	昭和42（1967）年に池波正太郎が発表した「鬼平犯科帳」の実質上の第一作は「浅草・御殿河岸」のタイトルがつけられ、ここが重要な舞台となっています。
4 要伝寺とその界限 台東区根岸3-4-14 剣客・鬼平	要伝寺とその界限は、「剣客商売」「鬼平犯科帳」などの舞台として繰り返し登場します。また、池波正太郎が6歳の頃、父・富治郎がこの近くでビリヤード場を経営していました。	28 外科医・堀本桃庵の住居 梅安 墨田区東駒形2丁目	藤枝梅安とは旧知の間柄であり、お互いに優れた外科医と鍼医として認められている。桃庵が肝臓を患った折には、梅安が泊りがけで鍼を打ちました。
5 寛永寺・車坂 台東区上野公園5-45	秋山小兵衛は折にふれ、寛永寺を参詣しています。少年時代の池波正太郎にとっても、永住町の家からほど近い広大な上野の山は、格好の遊び場でした。	29 如意輪寺 鬼平 墨田区吾妻橋1-22-14	「鬼平犯科帳」の「敵」では、寺の前の花屋があり、その花屋は密偵・大滝の五郎蔵がまだ盗賊だった頃の盗人宿でした。
6 大名・石川日向守の屋敷 鬼平 台東区上野1-19-13	火付盗賊改方の密偵・伊三次が盗賊・強士の伊佐蔵に刺され瀕死の重傷を負い、石川家屋敷内の足軽長屋に担ぎ込まれます。	30 枕橋さなだや 鬼平 墨田区向島1-1	「蛇の目」で平蔵の勤が、蛇の平十郎の去っていく姿にあやしい奴と感じた場所、当時は源兵衛橋と呼ばれていました。
7 浅草・平右衛門町 台東区柳橋1-2-1 鬼平・剣客	平右衛門河岸にある船宿・井ノ口屋から出てきた火付盗賊改方の同心・黒沢勝之助と女賊・網虫のお吉、そしてこの二人の様子を注視している黒沢の同僚・小柳安五郎の様子が描かれています。	31 みめぐりの土手 鬼平 墨田区向島2-1	「鬼平犯科帳」の「大川の隠居」に登場します。大川（隅田川）の土手のうち三囲神社の鳥居の貫から上が川面から見える辺りを指したようです。
8 浅草・鳥越橋 鬼平 台東区柳橋2-15-11	盗賊・風穴の仁助は、同僚の押切の定七にだまされ、女房・おひろとお頭・傘山の瀬兵衛との仲を疑って、この橋の上で瀬兵衛を刺してしまいます。	32 三囲神社 鬼平・剣客 墨田区向島2-5-17	「鬼平犯科帳」をはじめ、「剣客商売」などでもおなじみの神社。鬼平「迷路」では、玉村の弥吉が法沙寺の九十郎と出会い、盗みに誘われる舞台となっています。
9 牛堀九万之助の道場 台東区鳥越2-13-8 剣客・梅安	「剣客商売」では秋山小兵衛と、剣一筋に生きる九万之助の親交が詳しく描かれています。「仕掛人・藤枝梅安」では後に梅安の良き友となる小杉十五郎が牛堀道場の代稽古役で登場します。	33 常泉寺 鬼平 墨田区向島3-1-13	「鬼平犯科帳」の番外編とされる「正月四日の客」で前砂の基七が寺男になりすましていた寺で、江戸の儒学者・朝川善庵の墓があります。
10 阿部川町 台東区元浅草3-20-6 鬼平・梅安・雲霧	「鬼平犯科帳」では大工小僧の異名をとった盗賊泥鰌の和助が営む櫛屋、平蔵配下の同心・小柳安五郎の菩提寺・竜源寺、大盗賊・雨乞い庄右衛門を頭にもつお照の家などの舞台となっています。	34 業平橋 鬼平 墨田区吾妻橋3-4	「鬼平犯科帳」の「敵」の中で、大滝の五郎蔵が橋を渡ったところで尾行されていると感じ、すばやく西尾隠岐守下屋敷わきの木立に身を隠す場面が登場します。
11 しる粉屋・松月庵 鬼平 台東区寿1丁目	長谷川平蔵配下の同心・木村忠吾が盗賊の娘・お雪と深い仲になって、新堀端・宝宝寺門前のしる粉屋・松月庵で逢引きを重ねます。	35 西尾隠岐守屋敷 鬼平 墨田区業平1-13-7	周辺は穏やかな田園風景が広がる人気の行楽地。夜になると下屋敷は博奕場へと変わり、すねに傷を持つ者が身を隠す場所として作品に登場します。
12 菓子舗・越後屋 雲霧 台東区松が谷1丁目	〔東本願寺御用・御菓子司〕の金看板を掲げる格式の高い菓子舗。雲霧仁左衛門一味が最後に狙ったのがこの大店（火盗改メ）との熾烈な戦いが繰り広げられます。	36 春慶寺 鬼平 墨田区業平2-14-9	長谷川平蔵の剣友、岸井左馬之助の寄宿先として多くの作品に登場します。なかでも明神の次郎吉は春慶寺が主な舞台になっており、寺域や押上周辺の当時の様子が描かれています。
13 貞源寺 幕末 台東区松が谷2丁目	伊庭八郎の菩提寺である、松葉町・貞源寺。物語でたびたび登場するこの寺の和尚に八郎は幼少の頃から世話になっています。現在は中野区に移転。	37 出村の桜屋敷 鬼平 墨田区横川11-1	長谷川平蔵と岸井左馬之助は田坂直右衛門の孫娘・おふさに想いを寄せていました。横川に行く、おふさの嫁入り舟を平蔵と左馬之助が万感の思いで見送る場面は心に残ります。
14 岸井左馬之助の新居 鬼平 台東区下谷3丁目	若い頃、長谷川平蔵とともに高杉銀平道場で剣の修行に励んだ岸井左馬之助が、小野田治平の娘・お静と夫婦になり、新居を得て暮らすようになります。	38 高杉銀平道場 鬼平 墨田区太平1-25-4	横川沿いの出村町にあった道場に長谷川平蔵が19歳のときに入門し、ここで生涯の友・岸井左馬之助に出会います。二人は高杉先生から同時に目録を授けられ竜虎と呼ばれました。
15 小杉十五郎の旧居 梅安 台東区下谷3丁目	藤枝梅安の相棒となる、浪人の小杉十五郎が物語の前半で住んでいました。十五郎は、牛堀道場の後継者問題で門弟たちの恨みを買ひ、梅安のもとに身を寄せます。	39 法恩寺 鬼平 墨田区太平1-26-16	太田道灌ゆかりの寺で、「本所・桜屋敷」では長谷川平蔵と岸井左馬之助が門前の茶店（ひしや）で20余年ぶりに旧交を温める場面に登場。「尻毛の長右衛門」はこの法恩寺から物語が始まります。
16 新吉原・稲本楼 幕末 台東区千束4丁目	江戸屈指の大道場である、心形刀流・伊庭道場の後を継ぐ伊庭八郎は、恋人の遊女・小稲がいる吉原に通い続ける。「幕末遊撃隊」の物語はこの吉原の場面からスタートします。	40 相模の彦十の家 鬼平 墨田区亀沢4-14-6	彦十は本所松井町の岡場所に食療香具師あがりの無類者。平蔵が、放蕩無類の暮らしを送っていた頃からの取り巻きです。密偵に転じると、その働きは目を見張るものがありました。
17 秋山大治郎の道場 剣客 荒川区南千住3丁目	秋山大治郎の無外流道場は、父・小兵衛が建ててくれた15坪の道場で、百姓家を改造した質素なものですが、大治郎にとっては自分の城でした。	41 長谷川平蔵の旧邸 鬼平 墨田区緑4-12-7	長谷川平蔵が27歳のときまで暮らしていた屋敷のあった場所です。実父の宣雄が目黒行人坂の下手人を捕らえた手柄により京都町奉行に出世し、長谷川家はこの地を去りました。
18 橋場の料亭・井筒 梅安 台東区橋場2-19-7	藤枝梅安のなじみの店。主人の与助や店の者は、梅安を姪子の宮の先生と呼んで丁寧に扱っていました。座敷女中のおもとは店の主人も公認、夫婦同然の仲でした。	42 医師・小川宗哲の家 剣客 墨田区両国4丁目	長崎で異国渡来の医術を研究し、70をこえた老医だが、身分の上下にかかわらず、行きとどいた診察と治療を施す。秋山小兵衛とは仲の良い暮敵で、様々な場面で小兵衛や大治郎を助けます。
19 玉姫稲荷神社 剣客 台東区清川2丁目	社殿給馬堂のあたりで、不治の病に苦しみ誰にも心を開かない鬼熊酒屋の熊五郎に、秋山小兵衛は鐘ヶ淵の隠宅へ訪ねてくるように、やさしく誘いかけます。	43 軍鶏なべ屋・五鉄 鬼平 墨田区両国4-1-12	長谷川平蔵の幼なじみ三太郎が亭主の店。火盗改メの重要な連絡場所、後に、密偵・おまさなどが店の2階に寝泊まりするようになる。鬼平犯科帳の主要スポットです。
20 料亭・不二楼 剣客 台東区橋場1丁目	江戸時代の橋場は、資産家の寮や高級料理茶屋が建ちならが、いわば別荘地で、船着き場のある料亭・不二楼は、秋山小兵衛が主人夫婦と親交が深く最もお気に入りの店。	44 煙草屋・壺屋 鬼平 墨田区両国4-4-5	大盗・暮火の喜之助の下で修行した盗賊・大滝の五郎蔵は捕縛された後、密偵となり、義父・舟形の宗平とこの店を始めました。夫婦である女密偵のおまさも同居。多くの作品に登場します。
21 本性寺 剣客 台東区清川11-1-2	「剣客商売」では秋山小兵衛と朋友・嶋岡礼蔵の二人が想いを寄せ、後に小兵衛の妻となるお貞の墓がある寺として登場します。	45 茶店笹や 鬼平 墨田区千歳3-5-8	弥勒寺の門前にあり、長谷川平蔵が放蕩無類の日々を送り、本所の鏡と呼ばれていた頃をよく知るお熊婆さんの店。火盗改メの長官になってからは出先のような役割を担い、多くの作品に登場します。
22 船宿・嶋や 鬼平 台東区今戸1-1-10	船宿の亭主・亀次郎は長谷川平蔵の幼友達でお気に入りの板前がいて、うまい料理を出す平蔵が最もお気に入りの船宿。「鬼平犯科帳」のレギュラスポットといえるところです。	西光寺 台東区西浅草1-6-2	池波家の菩提寺。平成2年5月3日に逝去した池波正太郎は池波家代々の墓に眠っています。
23 駕籠屋・駕籠駒 剣客 台東区花川戸2丁目	秋山小兵衛がよく利用する山之宿町の駕籠屋。「暗殺」では、ここの駕籠かきが惨殺されてしまいます。	池波正太郎生誕地碑 台東区浅草7-4-9	池波正太郎は大正12年1月25日に待乳山聖天の南方で誕生しました。平成19年に待乳山聖天入口にある公園内に建立されました。
24 楊子店・卯の木屋 梅安 台東区浅草1丁目	藤枝梅安の相棒・彦次郎は仕掛人ですが、表の家業は浅草寺参道の卯の木屋に商品を納める腕の良い楊子職人です。		

まちあるきマップ

池波正太郎

